

## ベルマーク大使、春から2人が交代

### 「みんなWin, Winに」岡田太絵子さん・豊橋市

愛知県豊橋市のベルマーク大使が、倉光陽子さんから岡田太絵子さんになりました。ベルマークを担当する教育委員会の教育政策課から倉光さんが異動で転出したのに伴う交代です。



岡田さんは、以前は中部国際空港に勤務していましたが、今年4月から豊橋市に採用されました。出身は隣接する豊川市。小学校の頃はベルマークをよく学校に持っていったそうです。「ベルマークでボールが来たよ、と先生が言っていた。集めればもっともらえそうと思ってました」

その頃はもちろん運動の仕組みは知りませんでした。教育政策課に配属されて大使を受け継ぐこととなり、改めて勉強したそうです。「詳しく仕組みを知って



からまだそんなに時間がたっていませんが、子どもたちは喜ぶし、関わる方々がみんなWin, Winになるような取り組みだと思います。学校だけではなく、もっと広まっていったらいいですね」

豊橋市は「ベルマーク日本一！プロジェクト」に取り組んでいます。岡田さんは、いわばその新しい顔。「がんばります」と明るく答えてくれました。



趣味は旅行で、バリ島や韓国、そして各地の温泉などを訪ねたことがあるといいます。でも「豊橋市もいいところは多いです」。例えば、豊橋市には全国で17都市19路線でしか運行されていない路面電車が走っています。パトカーのような塗装の通称「パト電車」など多彩な車両があります。「冬はおでん車、夏はビール電車が走ります」。また豊橋市は手筒花火の発祥地で打ち上げが盛ん。使い終わった筒を傘立てに再利用していることもあるそうです。



興味は旅行で、バリ島や韓国、そして各地の温泉などを訪ねたことがあるといいます。でも「豊橋市もいいところは多いです」。例えば、豊橋市には全国で17都市19路線でしか運行されていない路面電車が走っています。パトカーのような塗装の通称「パト電車」など多彩な車両があります。「冬はおでん車、夏はビール電車が走ります」。また豊橋市は手筒花火の発祥地で打ち上げが盛ん。使い終わった筒を傘立てに再利用していることもあるそうです。

### 「気持ちよく作業」古谷祐子さん・神戸市立魚崎小

神戸市立魚崎小学校（山本直子校長、児童1228人）PTAのベルマーク大使が



4月、小島香奈恵さんから古谷祐子さんに交代しました。2016年1月に同校から第一陣ベルマーク大使が選ばれて以来、PTA役員が交代するたびに引き継いでもらっており、古谷さんは5代目になります。魚崎小は各学年6クラスずつの大規模校。多くの子どもたちの楽しい学校生活を、PTAの皆さんが支えています。

古谷さんはPTA本部役員として45名のベルマーク委員をまとめています。そのほかにも、6年生の学年代表として卒業式に関わる準備などをこなし、子どもたちのために日々奮闘中です。6年生の男の子と年長の女の子のお母さんで、こ



古谷さんによると「子どもが自ら『ベルマーク、わたしがやりたい！切りたい！』と言ってくれる家庭もある」そうで、同校のベルマーク熱の高さがうかがえます。「委員の皆さんに気持ちよく作業してもらい『ベルマークってそんなに負担じゃなかったな、楽しかったな』『ベルマーク委員、やったほうがいいよ』と思ってもらえる活動ができれば」。

の日も長女を幼稚園に送ったあとの活動でした。

ベルマークに関わるようになったきっかけは、昨年PTA学級委員になり、ベルマーク委員会を選んだこと。でも今年は本部役員としてベルマーク以外の仕事もあり、「やります」と言うまで非常に悩んだそうです。



古谷さんによると「子どもが自ら『ベルマーク、わたしがやりたい！切りたい！』と言ってくれる家庭もある」そうで、同校のベルマーク熱の高さがうかがえます。「委員の皆さんに気持ちよく作業してもらい『ベルマークってそんなに負担じゃなかったな、楽しかったな』『ベルマーク委員、やったほうがいいよ』と思ってもらえる活動ができれば」。

実は、ご自身よりお母さまが、以前から熱心にベルマークを集めており、PTAベルマーク委員の経験もあるのだとか。

お子さんが将来「三代目」になっていただけたら、素晴らしいことですね。

## 説明会でもベルマーク大使が活躍

### 豊橋では“3ショット”が実現

5月7日から6月21日まで、全国95会場で開かれたベルマーク運動説明会では、各所でベルマーク大使の活躍も目立ちました。

愛知県豊橋市で5月29日に開かれた説明会では、この春大使に就任した豊橋市教育委員会教育政策課の岡田太絵子さんが発表者として登壇。市が進めている「ベルマーク日本一！プロジェクト」について話しました。

豊橋会場には、2016年に就任した第一陣大使のひとり、ジブラルタ生命保険（ベルマーク番号15）の松本哲さんと、昨秋に第二陣大使になったラッキーベル（同03）の脇川雅之さんが姿を見せました。ベルマーク大使はそれぞれ活動拠点もばらばらで、多忙でもあり、互いに顔をあわせる機会はそう多くはありません。そんな中、ちょっと珍しい大使の3ショットが実現。今回が大使としての初仕事で緊張気味の岡田さんに、ベテランの松本さんが「楽しいよ」と話しかける場面もありました。

脇川さんは、6月6日の大宮での説明会に参加した後、財団事務所に立ち寄ってくれました。兵庫県神戸市に本社があるラッキーベルで主に西の地域の営業を担当していたため、今回が初の財団訪問になります。マークを保管する倉庫や、マークを確認する作業を見学し、職員の説明に興味深げに聴き入っていました。「ベルマークにはお金と同じ価値があるので、預かったマークをしっかりと処理されている」と話し、いつか自分も仕分けを経験してみたいと抱負を語りました。

そのほか、5月28日の岡崎会場には地元の仕分けボランティアグループ「火曜会」の三田靖子大使が、6月13日の那覇会場には地域でベルマークを広めている真栄平京子大使が、それぞれ来てくださいました。また6月19日の鹿児島会場では、4人で大使を務める板坂4姉妹の三女・板坂茉莉菜さんが、お母さんの朋子さんとともに参加して受付を手伝ってくれました。



## 岩手県中学校長会長が財団を訪問

### 2021年開催「全国中学校総合文化祭」に期待

岩手県中学校長会の小野寺昭彦会長（盛岡市立下橋中学校長、岩手県中学校文化連盟会長）が5月20日、ベルマーク財団を訪れました。

財団では東日本大震災の直後から、東北3県の小中学校長会の協力を得て被災校を支援しています。岩手県の中学校には昨年度、部活動や校外学習などで利用するバス代を援助しました。鉄道の駅から遠い学校が多いそうで、「ベルマークの支援はありがたいです」。

震災から9年目を迎えた今、小野寺会長は「当時のことを話すより、今こまで頑張ってきたことや、前へ向いてもらうこと」を大切にしているそうです。2021年8月には盛岡市で「第21回全国中学校総合文化祭」が開かれます。震災のあった2011年が岩手での開催だったそうで、それからちょうど10年後になります。「全国から受けた支援への、感謝を込めた大会にしたい」と、小野寺会長は期待を寄せていました。

